

## 資料 2 の補足説明資料

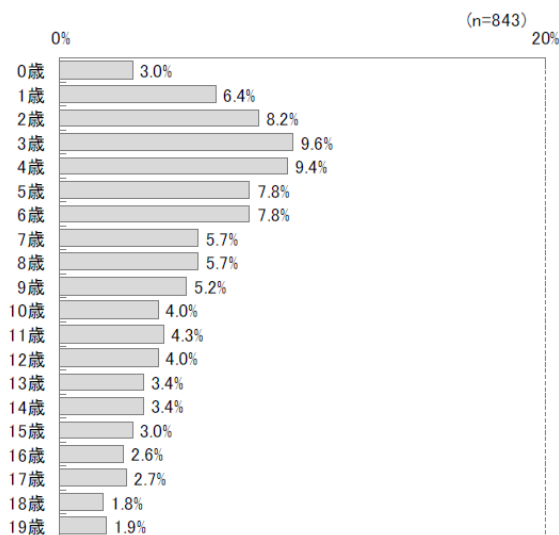
## 【1】6 圏域別

- ① 人口 10 万人あたりの医療的ケア児数は、「道南」「オホーツク」で少なく、「十勝」「釧路・根室」で多い。

## (1) 医療的ケア児数（年齢別）

- ② 医療的ケア児数は、3、4 歳をピークに徐々に減少していく傾向にあり（全国調査、下図）、本調査でも、0～5 歳の割合が最も高く、年齢区分が上がるにつれて徐々に減少している。
- ③ 「道南」「オホーツク」においては、年齢別分布が全体の傾向に反し、0～5 歳の割合が少

図表 25 医療的ケア児者の年齢（単数回答）



## 【引用】

「医療的ケア児者とその家族の生活実態調査報告書（厚生労働省令和元年度障害者総合福祉推進事業）」、三菱UFJリサーチ&コンサルティング、令和2年（2020年）3月、18項

ない。人口 10 万人あたりの医ケア児数も少なくなっており、当該圏域では、0～5 歳の医ケア児の把握が不十分である可能性が考えられる。

## (2) 医療的ケア児のうち重症心身障がい児

- ④ 医ケア児数に対する重心児の割合は、「道央」で高く、「釧路・根室」で低い。重心児を受け入れる施設（医療型障害児入所施設）が多い地域との相関が考えられる。

## (3) 医療機関等の利用状況

※記述回答。回答のあったものをカウントしている。（利用なしと無回答を区別していない）

- ⑤ 医療機関については、圏域に関わらず利用している。
- ⑥ 歯科医療機関及び訪問歯科診療について、「道北」で利用の割合が高い。
- ⑦ 訪問診療について、「道央」で利用の割合が高い。
- ⑧ 医療機関でのショートステイについて、医ケア児のうちの割合で見ると「オホーツク」で高くなっている。人口 10 万人あたりの人数で見ると、「道北」で利用者が多くなっている。「オホーツク」は医ケア児数が少ないため、割合で見ると数字が大きくなったと考えられる。

#### (4) サービスの利用有無

- ⑨ 「道南」でサービスを利用している割合が高い。「道南」では市町村で把握できていない医ケア児が一定数いると考えられるが、人口 10 万あたりの数を見ると、サービスを利用していない医ケア児の把握ができていないことも要因として考えられる。
- ⑩ 「釧路・根室」ではサービスを利用していない割合が高い。

#### (5) 利用しているサービス

- ⑪ 居宅介護について、「道南」で最も利用の割合が高く、「釧路・根室」で低い。
- ⑫ 短期入所について、「道南」「オホーツク」で利用の割合が高いが、人口 10 万人あたりで見ると、「道央」「道南」「道北」の順で多くなっている。
- ⑬ 福祉型児童発達支援について、「釧路・根室」「道央」で利用の割合が高く、「道北」で利用の割合が低い。
- ⑭ 放課後等デイサービスについて、「オホーツク」で利用の割合が高いが、人口 10 万人あたりの人数で見ると、「十勝」が多く、「道南」「オホーツク」では少ない。
- ⑮ 移動支援について、「道央」で利用の割合が高い。
- ⑯ 日中一時支援について、「オホーツク」で利用の割合が高いが、人口 10 万人あたりの人数で見ると、「十勝」が多い。

#### (6) 医療的ケアの内容

- ⑰ 「オホーツク」において、人工呼吸器及び酸素療法の割合が低く、また、人口 10 万人あたりの対象児数も少ない。
- ⑱ 「釧路・根室」において、人工呼吸器の割合が低く、また、人口 10 万人あたりの対象児数も少ない。
- ⑲ 「道南」において、酸素療法の割合が低く、また、人口 10 万人あたりの対象児数も少ない。

当該圏域において、対象児を把握できていない可能性も考えられる。

#### (7) 医療的ケア児についての相談先

※ 設問において「主な相談先」を複数回答で聞いたことから、回答の精度が低かったと考えられる。（「主な」がついていたため、実際の相談先であっても、複数回答として回答されていない可能性がある。）

- ⑳ 医療機関の職員を相談先としている割合は、全体でほぼ 100%に近い。

## 【2】人口規模区分別

- ① 人口 10 万人あたりの医療的ケア児数は、「20 万人以上」「1 万人未満」で少ない。  
人口の多い市町村ほど人口あたり医ケア児が多いと推測すると、「20 万人以上」は市町村が未把握の医ケア児がいると考えられる。

### （1）医療的ケア児数（年齢別）

- ② 医療的ケア児数は、前述の国調査のとおり、3、4 歳をピークに徐々に減少していく傾向にあり、本調査でも、0～5 歳の割合が最も高く、年齢区分が上がるにつれて徐々に減少している。
- ③ 「20 万人以上」「1～2 万」において、年齢別分布が全体の傾向に反している（0～5 歳が少ない）。当該市町村において、0～5 歳の医ケア児の把握が不十分である可能性がある。
- ④ 「1 万人未満」において、0～5 歳の割合が高い。未就学の医ケア児の把握が十分に行われていることが考えられる。また、6～11 歳の医ケア児の割合が相対的に低くなっており、就学後に都市部に転出するケースがあることも考えられる。

### （2）医療的ケア児のうち重症心身障がい児

- ⑤ 「1 万人未満」において、重心児の割合が高い。重心児を中心に把握している、又は、重心児以外の医ケア児を把握できていない可能性が考えられる。
- ⑥ 「20 万人以上」「2～5 万人」において、0～5 歳の重心児の割合が少ない。当該市町村において、0～5 歳の医ケア児（重心児）を把握できていない可能性が考えられる。

### （3）医療機関等の利用状況

- ⑦ 医療機関については、人口規模区分に関わらず利用している。
- ⑧ 歯科医療機関については、「20 万人以上」の割合が高い。
- ⑨ 訪問歯科診療及び訪問診療については、「5～10 万人」の割合が高い。
- ⑩ 訪問看護については、医療機関に次いで、人口区分にかかわらず利用の割合が高い。
- ⑪ 医療機関でのショートステイについては、「20 万人以上」の割合が高い。

### （4）サービスの利用有無

- ⑫ 「20 万人以上」で、いずれかのサービスを利用している児の割合が高い。
- ⑬ 「1 万人未満」で、いずれかのサービスを利用している児の割合が低い。人口 10 万人あたりで見ると、いずれかのサービスを利用している児の数が少なく、サービスを利用している児を把握できていない、又は、地域でサービスを利用できていない可能性が考えられる。

### （5）利用しているサービス

- ⑭ 居宅介護について、人口規模区分にかかわらず、一定の割合で利用している。
- ⑮ 短期入所について、「20 万人以上」で利用の割合が 50%を超えている。人口 10 万人あたり

の人数で見ても、「20万人以上」が最も多い。

- ⑯ 福祉型児童発達支援について、「10～20万人」で利用の割合が高い。「20万人以上」で利用の割合が低い。
- ⑰ 放課後等デイサービスについて、各サービスの中で最も利用が多く、「1万人未満」以外のすべての人口規模区分において、最も利用率が高い。（「1万人未満」では短期入所に次いで2番目）
- ⑱ 移動支援、訪問入浴及び日中一時支援について、「20万人以上」「10～20万人」「5～10万人」で利用の割合が高く、人口規模との相関が見られる。

#### （6）医療的ケアの内容

- ⑲ 「1～2万人」において、人工呼吸器及び酸素療法の対象児の割合が少なく、人口10万人あたりの対象児数も少ない。対象児を把握できていない可能性が考えられる。
- ⑳ 「10～20万人」の酸素療法の対象児の割合が高く、また、人口10万人あたりの対象児数も多い。

#### （7）医療的ケア児についての相談先

※ 設問において「主な相談先」を複数回答で聞いたことから、回答の精度が低かったと考えられる。（「主な」がついていたため、実際の相談先であっても、複数回答として回答されていない可能性がある。）

- ㉑ 医療機関の職員を相談先としている割合は、全体でほぼ100%に近い。
- ㉒ 「20万人以上」「10～20万人」「5～10万人」「2～5万人」では、福祉サービス事業所等の職員が、医療機関の職員に次いで、2番目に多く選択された。
- ㉓ 「1～2万人」「1万人未満」では、行政機関の職員が、医療機関の職員に次いで、2番目に多く選択された。